

【環境審議会】会議概要

会 議 名	令和4年度第2回環境審議会				
事 務 局	環境部長・須藤 純二、環境政策課長・加藤 鉄也、生活環境保全課長・志田野 隆史、足立清掃事務所長・山本 克広				
開催年月日	令和4年9月9日（金）				
開催時間	15時00分から16時50分まで				
開催場所	足立区役所8階庁議室				
出席者 ※：オンライン参加	※田中 充	※百田 真史	※水川 薫子	ぬかが 和子	鹿浜 昭
	石毛かずあき	※佐藤 強士	※茂木 福美	※植村 公彦	田島 のぞみ
	工藤 信				
欠 席 者	土屋のりこ	大峽 廣男	小泉 俊夫	中村 重男	
会議次第	別紙のとおり				
資 料	・令和4年度第2回足立区環境審議会資料				
そ の 他					

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

環境政策課長の加藤でございます。会議に先立ち、事務局からお知らせがございます。今回も会場とオンラインの併用で会議を開催いたします。ご発言の際は、ゆっくりはっきりを意識していただきますよう、ご協力をお願いいたします。

また議事録については、出席委員名および発言者、発言内容を掲載し公開することを報告させていただきます。

それでは田中会長、よろしく申し上げます。

**(田中充 会長)**

皆さんこんにちは、田中でございます。

今日もオンラインと会場の併用で会議を進めさせていただきます。新型コロナウイルス感染症も以前よりは収まってはきているものの、まだ感染が広まっておりますので、その点にも注意しながら進めさせていただきたいと思っております。

本日は令和4年度第2回環境審議会ということで、審議事項として脱炭素化に向けたロードマップの審議と報告事項が4点ございます。どうぞ活発なご審議をお願いしたいと思います。

それでは本日の出席委員の確認をお願いできますでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

会場が5名、オンラインが6名、合計11名の出席となっております。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。

委員定数が15名で出席委員が11名ですので、本日の審議会は成立していることをご報告いたします。

それでは次第に沿って進めさせていた

だきます。まず委嘱状の交付について事務局からお願いいたします。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

それではご報告させていただきます。区議会から推薦いただく委員のうち2名の異動がありました。本来であれば工藤副区長から委嘱状をお渡しするところでございますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、委嘱状をお席にご用意させていただきました。ご紹介をもって代えさせていただきます。鹿浜昭委員でございます。

**(鹿浜昭 委員)**

鹿浜です。どうぞよろしく申し上げます。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

続きまして、石毛かずあき委員でございます。

**(石毛かずあき 委員)**

皆様どうぞよろしく申し上げます。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

以上2名でございます。

**(田中充 会長)**

分かりました。鹿浜委員、石毛委員につきましては、どうぞ今後ともよろしく申し上げます。

続いて、本日の議事録署名人を指名させていただきます。会場にお越しいただいている委員の中から、今ご就任をいただきました鹿浜委員、石毛委員にお願いしたいと思います。恐縮ですが、よろしく申し上げます。

次に審議会の公開非公開でございますが、足立区審議会等の設置及び運営に関する指針に基づきまして、個人情報や公にすることが不適當なものを除いて、審議会は基本的に公開するものとなっております。また審議会において公にするべ

きでないと認められる情報やデータがある場合には、その箇所について審議会の決定により非公開とすることができません。

本日の審議会では傍聴希望の方がいらっしゃるか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

傍聴希望の方が3名いらっしゃいます。

**(田中充 会長)**

分かりました。本日は傍聴希望の方がいらっしゃいます。議題を見たときに、特に非公開とすべき内容はないと思いますが、非公開とすべき事項があるとお考えの委員がいらっしゃいましたら、どうぞご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。審議会委員の同意も得られたということで、本日の審議会は公開とさせていただきたいと思えます。では、傍聴希望の方に入ってくださいようお願いしますか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

了解しました。

**(田中充 会長)**

大丈夫でしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

会場でございます。傍聴人の入場が完了いたしました。

**(田中充 会長)**

分かりました。それでは配布資料の確認を事務局からお願いいたします。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

それでは事務局から配布資料の確認をさせていただきます。事前に皆様にお配りした資料は本日の次第、令和4年度第2回足立区環境審議会資料、別紙1脱炭素ロードマップ(案)、別紙2事業別CO<sub>2</sub>

削減量試算でございます。

次に、本日の進め方でございますが、ご意見やご質問がございましたら、オンラインの方は挙手ボタンまたは画面に向かって分かるよう挙手をお願いいたします。会場の委員の方は挙手をお願いいたします。事務局で挙手されている方を会長にお伝えいたしますので、会長の指名によりお1人ずつご意見、ご質問をお願いいたします。その後、委員からのご意見、ご質問がそろったところで会長の進行で事務局からお答えをいたします。進め方の説明は以上でございます。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

本日もオンラインと会場で分かれていますけれども、どうぞご協力をお願いいたします。

それでは議題3の環境審議会への諮問について事務局からお願いいたします。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

諮問書を工藤副区長より読み上げます。よろしくお願いいたします。

**(工藤信 委員)**

足立区環境審議会会長、田中充様。諮問書、足立区環境基本条例第24条第2項の規定に基づき、2050年足立区二酸化炭素排出実質ゼロに向けた実行計画である足立区脱炭素ロードマップの策定について諮問いたします。足立区長、近藤やよい。よろしくお願いいたします。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

ただ今、審議会に脱炭素ロードマップの策定について足立区長より諮問をいただきました。本日より当分の間、この審議会において審議事項として足立区脱炭

素ロードマップの策定について検討を進めてまいりたいと思います。

それではただ今、諮問いただきました脱炭素ロードマップの素案について審議に入ります。事務局から資料の説明をお願いいたします。

**(井越昭久 計画推進係長)**

事務局でございます。

それでは審議事項1について説明をさせていただきます。配布している資料の別紙1、別紙2はいずれも審議事項1関連の資料となります。別紙2をご覧ください。まず別紙2-1では、既存の取組や現時点で実施が決まっている事業につきまして、2030年度のCO<sub>2</sub>削減見込量を試算しております。試算によると、2030年度に区全体で7万1,518トン、公共施設等で8,910トンとなっており、プラスチック類の分別回収による焼却時のCO<sub>2</sub>排出量の削減が最も多く見込まれています。別紙2-2は2030年度の削減見込量をグラフで示したものです。

CO<sub>2</sub>削減に向けて取り組む事業については、別紙1 脱炭素ロードマップ案の26頁から28頁に一覧でまとめております。区全体と公共施設等に分けまして、ア 既存事業の継続と拡充、イ 目標の実現に向けた新規の取組、ウ さらなる脱炭素化に向けての順で示しています。29頁以降に各事業の概要などを紹介していますが、新規事業や今後検討を進める事業については、細かい事業内容などは関係所管との協議により決定していく必要がありますので、現時点では別紙2の削減量や別紙1の個別事業の概要については今回の資料には入れておりません。これから調整を進めてまいります。

別紙1の26頁から28頁の事業一覧を

ご覧いただき、今後こんな取組を検討していくということをイメージしていただければと思います。

別紙1の7頁から8頁では、本ロードマップにおけるCO<sub>2</sub>排出削減に関する考え方を示しています。環境基本計画やロードマップでCO<sub>2</sub>削減量や削減目標の根拠として用いているオール東京62市区町村共同事業の数値ですけれども、こちらは都全体のエネルギー使用量を地域ごとの面積や活動量で按分して算出しているものなので、区の取組が削減量にそのまま正しく反映されるというわけではありません。このため、ここでのCO<sub>2</sub>排出量やエネルギー消費量は参考値として用いることとしています。この点は前回の審議会で田中会長からご説明いただいたとおりになっています。

またCO<sub>2</sub>の削減は、区の取組以外にも様々な要素によって影響を受けます。このため、現在の取組を続けた場合でも一定の削減を見込むことができます。8頁のグラフは、直近3年の傾向で今後も推移し続けた場合の2030年度のCO<sub>2</sub>排出量の推計値と、目標としている2013年度比46%削減の排出量を表していますが、その差が24.1万トンとなっています。

さらに8頁の下の表では、国や都の施策による2030年度の削減見込みを示していますが、国が示している排出係数の改善が実現されれば大幅なCO<sub>2</sub>削減につながり、数値上では区の目標を達成することとなります。ただし、この試算は傾向や目標値を基にしたもので、実際に取組を進めていった場合に、見通しや目標と乖離してしまうことも考えられます。したがって、各事業の取組状況やCO<sub>2</sub>削減実績から3年に1度見直しを行い、確

実に目標の達成を目指していくこととなります。

続いて9頁から18頁は、区全体のCO<sub>2</sub>排出削減に関連する現状と課題です。

13頁では、区の特長である太陽光発電設備の導入ポテンシャルについて、23区内の比較と、現状の区内の導入量、導入率について説明しています。また14頁では、太陽光発電設備の設置費補助について、設置条件が近い自治体の実施状況をまとめています。

17頁の燃やすごみの組成について、お送りした資料では実績がまとまり次第内容を更新しますとしていましたが、実績がまとまりましたので画面で更新した内容を共有させていただきます。これによると、プラスチック類の割合が増加していることが分かります。なお2020年度は組成調査を実施しておりません。

18頁では、参考としている緑の基本計画の現状値と目標値について、特定生産緑地面積の実績が目標を上回ったことにより、2024年度目標が21.8haに修正されております。

19頁から25頁には、公共施設等、区の事務事業におけるCO<sub>2</sub>排出削減に関する現状と課題が載っています。22頁は施設でのエネルギー使用量の推移を表しています。24頁の施設におけるごみの排出量の推移では、削減傾向から2018年度に増加に転じ、2020年度に再び減少となっています。要因については、保育園のおむつの廃棄方法の変更や新型コロナウイルスの影響による施設の使用中止などが挙げられます。

また公用車の台数や走行距離、走行に伴うCO<sub>2</sub>排出量の推移を25頁に示しております。既にお送りしている資料では、

下のグラフ内の折れ線グラフで示した特定低公害・低燃費車の導入率について、2021年度は38.7%に低下していると記載しておりましたが、実際には53.6%の誤りですので、導入率は向上しています。

26頁から28頁が先ほどお伝えしました具体的な事業の一覧となっており、29頁以降には個別事業の概要などを示しております。今後、新規事業に関する調整を進めていくとともに、目標値の設定なども行っていきます。審議事項1の説明に関しては以上になります。

#### **(田中充 会長)**

ありがとうございました。

不明な点、あるいはもう少しまだ理解が届かない点がありましたら、ご遠慮なく指摘をいただきたいと思います。

あらためて確認ですが、事前配布資料から修正があった点、あるいは追加があった点について、もう一度ご紹介いただいてよろしいでしょうか。

#### **(井越昭久 計画推進係長)**

まず別紙1の17頁です。事前配布資料では、実績がまとまり次第内容を更新しますと記載しておりましたが、2021年度の実績が新たに入っております。

2点目が18頁の緑化に関する現状値と目標値についてです。こちらの特定生産緑地面積の目標値が16.9haから21.8haに見直しになっております。

3点目が25頁下のグラフの折れ線グラフです。特定低公害・低燃費車の導入率について、事前配布資料では2021年度の実績が38.7%となっておりますが、実際には53.6%であり、前年度比で増加しております。

#### **(田中充 会長)**

分かりました。それでは、まず8頁ま

でのロードマップの概要や脱炭素化の目標について、ご質問やご意見がありましたらお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

画面上で植村委員が挙手されていますので、植村委員お願いいたします。

**(植村公彦 委員)**

ご説明ありがとうございます。とても分かりやすくご説明いただいて、これからの議論の上では、範囲は広いですが、必要な情報はいただけたと思っています。

8頁のグラフを拝見しますと、過去3年間のペースでいくと現状では46%に届かないという前提で、これをさらに削減するために行う事業について、これから一緒に審議していくという理解でよろしいでしょうか。

もう一つ、過去3年間はかなりコロナの影響があるのではないかと思うのですが、この点について加味した上でご検討されているのかということについてご説明いただきたいと思います。

**(田中充 会長)**

分かりました。今の2点について、事務局、いかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局からご説明させていただきます。

まず8頁の24.1万トンをどのように減らしていくのかについて、ロードマップにおけるCO<sub>2</sub>の排出削減の考え方をもう一度ご説明させていただきたいと思います。

この削減目標の根拠としているのはオール東京62市区町村共同事業の数値でございます。これは都全体のエネルギー使用量を地域ごとの面積や活動量から按分して出しているものであり、足立区のCO<sub>2</sub>排出量が正しく反映されているかと

いうと、そう言い切れない部分もあると思っています。このため、ここでのCO<sub>2</sub>排出量やエネルギー使用量は参考値として用いているということを前提としてご理解いただきたいと思います。

24.1万トンについては、全て足立区がやるべきものでもなく、国や都の取組によっても一定程度影響を受けます。国や都の施策の中で最も大きいのが排出係数であり、これだけで46%を達成できるような可能性も出てきます。ただ、あくまでも全て試算や目標値ですので、我々が何もしなくていいというわけでは決してありません。そのような中で区としてしっかり取り組んでいく必要があると思っています。

**(田中充 会長)**

もう1点、植村委員からのご指摘は、過去3年間の傾向を考慮した上で見込むと、2030年度の推計値が162万2,000トンになるということですが、この3年間はコロナの問題があつて、ある意味非日常的な状況だったのではないかと、そういうことはどう考えるのかという趣旨だと思いますが、その点はいかがでしょう。

**(井越昭久 計画推進係長)**

事務局でございます。

オール東京62の最新の実績値は2019年度になりますので、数値上ではコロナの影響を受けていないということになります。

**(田中充 会長)**

分かりました。植村委員いかがでしょうか。

**(植村公彦 委員)**

ありがとうございます。コロナが影響した期間の数字はまだ出ていないということと理解しました。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。

会場では手が挙がっている委員はいらっしゃいますでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

石毛委員が挙手されています。

**(田中充 会長)**

石毛委員、お願いいたします。

**(石毛かずあき 委員)**

ありがとうございます。よろしく願いいたします。

2 頁に PDCA サイクルによって進行管理を行っていくとありますが、この PDCA サイクルを回すことによって、皆さんが同じ目標を達成するために、同じ方向を向いて動いていくというような統制は取りやすいです。しかし、これから計画の運用をしていく時に、区民や事業者、行政が何をしたかという管理がないです。

したがって、1 つの提案として OODA ループという考え方があります。これは、Observe、Orient、Decide、Act という 4 つのループに分かれるのですが、運用する我々が個人個人で様々な観察をして、情勢を判断して、そこで意思決定をして行動するという考え方です。

これは要望ですけれども、考えていただけたらと思います。

**(田中充 会長)**

分かりました。新しいキーワードのご紹介がありましたが、私もまだ十分理解できてない概念や手法ですので、今後情報提供もいただいて、計画の進行管理に活用していくことを考えていければと思います。事務局、少し勉強させていただいたらどうでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

私も OODA ループというのは初めて聞きましたので、まず勉強させていただきたいと思います。

**(田中充 会長)**

石毛委員、申し訳ないですが、事務局に情報提供をしていただいて、その手法を参考にさせていただきたいと思います。

**(石毛かずあき 委員)**

承知いたしました。

**(田中充 会長)**

他の委員はいかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

ぬかが委員が挙手されています。

**(田中充 会長)**

ぬかが委員、お願いいたします。

**(ぬかが和子 委員)**

太陽光のポテンシャルが非常に高いという結果が出ている中で、このポテンシャルを大いに生かしていく方向性が非常に重要だと思います。足立区としては、平地というのが最大の特性ですので、太陽光発電の導入や自転車の活用での CO<sub>2</sub> 削減というのが非常に重要なのかなと思っています。その点について、具体的にどう重視していこうとしているのか、お伺いしたいと思います。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。

区の特性を踏まえた施策展開、特に太陽光、自転車の活用などがあるのではないかとことですね。もうお一人、茂木委員からもご発言いただいた後、事務局から回答をお願いしたいと思います。茂木委員、お願いいたします。

**(茂木福美 委員)**

茂木です。よろしくお願いいたします。14 頁の下の表について、足立区の人口が世田谷区より多くなっているのですが、

これはどういうことでしょうか。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。

お二方からご質問をいただきましたが、事務局、いかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

まず人口については、確認して訂正させていただきます。申し訳ございません。

**(田中充 会長)**

ぬかが委員のご質問についてはいかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

太陽光のポテンシャルの高さを生かしていくというのは、当然我々も考えていきたいと思っています。国や都が今後、一定規模の新築の建物で義務化を検討しているということや、区としても公共施設への率先導入をしっかりと検討していく必要があると考えています。

**(須藤純二 環境部長)**

須藤です。補足をよろしいでしょうか。

**(田中充 会長)**

はい。お願いいたします。

**(須藤純二 環境部長)**

太陽光発電を具体的にどう重視していくのかという内容について少し触れさせていただきたいと思います。

14 頁の下の表を見ると、太陽光発電の補助制度がかなり効いているということが分かります。例えば補助制度が全くない江戸川区と比較すると、ほぼ同じような人口規模、世帯数になっていますが、総導入量としてはだいぶ差が出てきています。実際にそういった結果が数値として表れているということで、これについては拡大しながら継続していきたいと思っています。

ただ、今は固定価格買取制度での設置という形になってはいますが、例えば屋根貸しをして初期負担なしで太陽光パネルを付けるといった、新たな形でのサービスの提供が始まっています。そうしたこともこの計画の中に入れて、様々な形で太陽光が設置できるようにしていきたいと思っています。

さらに個人だけではなく、事業者に対しても屋根貸しの PPA モデルも含めて展開することで、地形的にポテンシャルが高い土地柄を有効に活用できるような施策を進めていきたいと考えています。

自転車の活用については、オープンストリートというソフトバンク系のシェアサイクルシステムが足立区の中で既に始められています。庁舎の隣の中央公園にも自転車のポートが置かれていますし、モデル的に始めてはいますが、かなり増えてきています。シェアサイクルは 2 系統あってドコモ系とソフトバンク系なのですが、周辺の自治体はソフトバンク系の方が多く、草加市も同じソフトバンク系がやっていますので、区外でも活用できるようになっています。自分で持たないことで、環境にもいいということですが、自転車の総数を減らせるし、盗難の恐れも減らせることで防犯上の利点もありますので、ぜひこれからも拡大していければと考えています。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

いろいろと背景をご説明いただいたかと思います。さらにご質問、ご意見ありましたら、お願いいたします。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

鹿浜委員が挙手されています。

**(田中充 会長)**



鹿浜委員、お願いいたします。

**(鹿浜昭 委員)**

今の太陽光パネルの件でお聞きしたいと思います。東京都が太陽光パネルの設置義務化を検討しているということについて、2025年4月からということかと思うのですが、徹底すべき割合というのが23区でそれぞれ異なっていて、世田谷区では85%、千代田区では30%と地区によって異なっているということが書かれていました。足立区はちなみに何%なのか、これに対してどのように対応されていくのか、足立区の年間の新築件数は何件ぐらいあるのかについて、教えていただければと思います。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

太陽光パネルの設置についてのご質問かと思います。もうお一人かお二人ご質問いただいてから、お答えいただきたいと思います。いかがでしょうか。

オンラインの方で植村委員が手を挙げられていますので、植村委員からどうぞ。

**(植村公彦 委員)**

太陽光発電のポテンシャルが非常に高いというのは、私もとても注目してしまっていて、ここに注力していただくことがとても望ましいと思います。現在の導入率が4.3%となっていて、東京都内などの比較対象がないと何とも言えないのですが、私が他の資料で見た限り、日本国内の他地域では11%以上、14%が最高ぐらいのデータもあるのですが、もう少しできないのかということで、例えば東京都内だけの比較ではなくて他県と比較されているのかですとか、他県で参考になるような事例があって、それを取り入れていく予定があるのかといったところもお

聞きしたいと思います。

また、補助金については、お金を使っている以上はもっと効果がないと怒られてしまうような施策だと思うのですが、でも、まだ4%ということで、これからもっと増やしていくために何をすべきなのかということについて、どのような検討をされているのか、教えていただければと思います。

**(田中充 会長)**

分かりました。鹿浜委員、植村委員から太陽光パネルの取組、現状把握されている数値などについてご質問がありました。事務局、いかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

まず鹿浜委員からの都の義務化に関しては70%ということでございます。

太陽光発電を増やしていく方法としては、大きく2つあると考えています。まず1つ目は既存の補助金の制度で、これは長年やってきておりますので、これをしっかり継続していくことと、区民の方に知っていただくことです。

2つ目は、FITの買取価格が下がっており、新規で導入する魅力を感じていただけないということで、先ほど環境部長からもありましたように、自己負担なしでリースのような形で導入ができる屋根貸しの制度について、どのように区民の方に周知し、普及させていくのかも考えていきたいと考えております。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

お二方の委員、いかがでしょうか。今のお答えがありましたが、よろしいでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

田島委員が挙手されております。

**(田中充 会長)**

田島委員、お願いいたします。

**(田島のぞみ 委員)**

課題1-3のごみの減量及びプラスチック資源の循環利用について、水分が多く含まれる生ごみはごみの焼却処理時のエネルギー効率を悪化させる要因となるため、食品ロス対策などにより減量を図る必要がありますと書いてあるのですが、区では具体的にどういった取組をされているのか教えていただきたいと思っております。

また、新聞記事などで読んだのですが、学校給食の残渣をコンポストで堆肥化して、それを学校が畑で利用する取組をされている自治体があるようなので、このような取組もしてほしいと思っております。子どもの教育のためにもすごくいいことだと思ったので、共有させていただきました。このようなことで、循環型の社会について学ぶ機会が増えるのかなと思っております。

17頁では、プラスチックごみの割合は微増傾向が見られることから、プラスチックごみが相対的に増えていることがうかがえますとありましたが、具体的な原因が分かれば教えていただきたいです。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

生ごみの話とプラスチックごみのことで3点、ご質問いただいたかと思っております。

続いて石毛委員、お願いいたします。

**(石毛かずあき 委員)**

私からはネット・ゼロ・エネルギーについて、ビルに関してはこのロードマップでは記載がないのですが、それはなぜでしょうか。もう1つ、ハウスに関しては、当然普及を促進していく必要がある

ということで、今、官民と共同してブランド化を通じてZEHの知名度の向上を図っていこうという活動が行われてきています。例えば住宅生産団体や全国工務店協会のような全国団体が先頭を切ってホームページでZEHマークを掲載したり、基準に合った所に関してはシールを貼ったりというような動きもやっていますが、今、足立区の現場ではどのようになっているのでしょうか。

その動きが目に見えるような形であれば、区内の雰囲気は良くなってきているということも分かりますし、区民の方々の目にも触れられると思っております。ただ目に触れる機会があっても、知名度がなければやはり認識としては薄くなってしまいうので、こういった地域の事業者の努力もできれば表に出してあげていただきたいと思っておりますが、その点についてお聞きいたします。

**(田中充 会長)**

分かりました。ビルのエネルギー対策に関連して、特に知名度を上げる取組についてどう考えるかというご質問だったかと思っております。事務局、よろしいでしょうか。

**(山本克広 足立清掃事務所長)**

まず16頁のご質問について、水分を多く含んでいる生ごみを減らすために、できることの啓発を行っております。賞味期限などについて啓発して、そもそもごみとして捨てる食品がないように協力をお願いすることや、飲食店との連携、フードバンクのようないらなくなった食材を寄付してまた活用するなど、様々な対策を行っております。

それから、プラスチックが増えている理由としては、令和2年、令和3年とコ

コロナ禍によってご自宅で食事をされるなどの巣ごもり需要が増えたことや、買い物でも衛生上のことを考えてプラスチック類が重宝されているということも考えられると思います。そういったことで、一時的だとは思いますが増加している状況でございます。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

学校の環境教育の一環で、生ごみのコンポストを使ったらどうかというご提案をいただきましたが、実施している学校が1校あります。ただ、コロナ禍で学校が閉まっていたということもありましたし、子どもたちが生ごみを持ってきて入れるのもどうかということもありましたので、今事業の見直しをしています。生ごみだけではなくリサイクルについての学校教育は非常に大切だと思いますので、コロナ禍でもできるリサイクル事業をこれからも積極的にやっていきたいと思っています。生ごみの水切りに関しては、水切り器の紹介などの啓発をこれからもしっかりやっていきたいと考えています。

続きまして、ZEBとZEHについてですが、確かにZEBとZEHの知名度を上げていくということは、これからしっかりやっていきたいと思っています。今はできていないというのが実態でございます。これからどういう形で区民の方に知っていただくのか、区の施設としてもどこかZEB化ができないかということをしつかり検討していきたいと考えております。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。

公共部門の脱炭素化においては、公共施設のZEB化は非常に有効だと思います。区内の他の事業者にもモデルになります

ので、ぜひ取り組んでいただければと思います。

続きまして、26頁以降について、ご意見、ご質問をいただければと思います。

植村委員、よろしくお願いいたします。

**(植村公彦 委員)**

太陽光発電について2つほどお聞きしたいのですが、先ほどお伺いした屋根貸しの制度をこれから実施していくことですが、導入率が4%という現状に対して、屋根貸しを通じてどのぐらいの目標を達成しようとしているのか、またいつまでに達成しようとしているのか、今お話しできることがあればいただきたいというのと、他の地域で実際にやって成果を上げている事例があれば共有していただきたいというのが1つです。

2つ目が、足立区では農地や休耕地は最近縮小傾向ではあるのですが、この辺りを利用する施策があるのかという点についても伺いたいと思っています。

**(田中充 会長)**

分かりました。他の委員からのご質問も併せて後ほどお答えいただきたいと思います。他の委員はいかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

ぬかが委員が挙手されています。

**(田中充 会長)**

ぬかが委員、お願いいたします。

**(ぬかが和子 委員)**

1つ目は今話題になっているPPAの関係です。10年から15年前くらいになりますが、例えば飯田市とか全国の市民団体の話を聞いていたときに、おひさま発電とか市民共同発電所という取組を行っている所は全国でも意外と多いなというのが分かりました。ぜひ、そういうこと

も積極的に活用していただけたらと思っています。一方で、つい最近も全国の党派を超えた議員さんと交流をする場があり、ディスカッションをしていたときに、やはり地方でも都市部でも太陽光に対しての反対運動が結構あるようです。地方だと環境破壊になるということと、足立区でもあると思うのですが、都市部だと太陽光パネルがマンションなどに反射して、マンションの所有者から反対されるとか。高い建物が無い所は比較的やりやすいとは思いますが、そういうところも十分に配慮しながら、ぜひ進めていってほしいと思います。

2つ目ですが、今、足立区ではプラごみの資源回収を検討しているわけですが、そもそも私たちは容器包装リサイクル法があるのに燃やしてしまうのはおかしいと、10年以上前から言ってきたので、資源回収は本当に大歓迎です。ただそう考えると、なぜプラごみを燃やすのかという議論をこれまでやってきたときに、当時の正式な答弁は、今の清掃工場の焼却炉は高温に耐えられるようになっていて、プラスチックを入れて高温にすることで対応できているということでした。そうすると、ただでさえプラスチックを除くと高温にならないわけで、しかもリサイクルが進んで水気が多いごみを中心になると、相当頑張って水気を除いて燃やしやすいくみにしないと行けないので、そのためには、まずは出さないようにするというところをかなり意識して頑張ってほしいと思います。

3つ目ですが、一般的な区民の方は、実質 CO<sub>2</sub> 排出ゼロというのはイメージが湧かなくて分からないと思います。そこで別に我慢大会をしなくても、前向きな

行動変容によってできるということを示すのがロードマップだろうと考えています。そういう点では、ぜひ計画策定の段階から区民の方に一刻も早く知ってもらうような機会を設けるということも並行して考えてほしいと思います。

4つ目に、実質エネルギーゼロというときには省エネ、創エネ、蓄エネを考えるわけですが、26頁以降の事業一覧では省エネ、創エネ、行動変容という区分になっていて、蓄エネはどこに入るのか、そういう側面はどう考えているのでしょうか。

#### **(田中充 会長)**

大変多岐にわたる論点でご質問をいただきましたが、事務局いかがでしょうか。

#### **(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

まず、屋根貸しを含めた太陽光の導入目標については、今は検討中ですが26頁から28頁の中でしっかり設定していきたいと考えております。また事例に関しては、全国の様々な事例を集めているところでございます。

休耕地の活用についてですが、足立区では、住宅地でメガソーラーを造っていくというのはなかなか難しいと思っております。我々としては民家や事業所の屋根を使った太陽光を中心に考えており、メガソーラーは今のところ考えていないというのが正直なところでございます。

続きまして、市民共同発電の取組に関しては、もう少し先になるかもしれませんが、地域発電の可能性についてぜひ検討していきたいと考えております。

太陽光の反射などの問題に関しては、公共施設で導入するときには注意しないといけないと思っております。

す。課題はありますが、足立区は先ほど申し上げましたようにポテンシャルが高い地域ですので、しっかり太陽光の導入を進めていきたいと考えております。

CO<sub>2</sub>ゼロについてなかなかイメージが湧かず、行動変容につながらないのではないかということですが、区民の方などに行動していただきたい内容をまとめたチェックリストを作成いたしました。このチェックリストをイベントなどで区民の方に配ったり、あるいはイベントでチェックをしてもらって何かをお渡ししたりするなど、楽しみながら自分の行動をチェックできるような方法が必要ではないかと考えております。

公共施設のZEB化については、関係課と調整しながら、1つでも足立区のZEB化のシンボルとなるような施設ができればと考えております。

蓄エネについては大事な視点ですので、ロードマップにも落とし込んでいければと考えております。

**(須藤純二 環境部長)**

須藤です。補足させていただきます。

**(田中充 会長)**

はい。どうぞ。

**(須藤純二 環境部長)**

蓄エネの話ですけれども、26頁の表の(1)②の省エネルギー機器導入費補助金のところに蓄電池を記載しています。現在でも自家消費に向けた蓄電池の補助は実施をしていますので、そのPRも含めてさらに展開できるようにしていきたいと思っています。

東京都でも、HTT、Hはエネルギー使用を「減らす」、Tの1つ目は「創る」、最後のTが「蓄める」ということで、コマシャルもやって展開していますので、

区も同じように使用するエネルギーを減らして、再生可能エネルギーでエネルギーを作っていく、さらにそれをためて自分で消費しながら、できるだけCO<sub>2</sub>排出量を減らしていくといった循環ができるように、この計画の中にもしっかりと盛り込んで、区民の方の共感が得られるような計画にしていきたいと思っています。

**(山本克広 足立清掃事務所長)**

ごみ焼却のサーマルリサイクルの関係で回答させていただきます。ご指摘のとおり、水分を含むごみの減量の取組を実施していかなければならないと考えておりますが、燃やすごみ全体を減量していく活動について区民の皆様にご理解、ご協力を求めていくよう努めてまいりたいと考えております。

**(田中充 会長)**

植村委員から追加のご発言があるようです。どうぞお願いいたします。

**(植村公彦 委員)**

休耕地の活用と申し上げたのは、主に農水省も推奨されている営農型太陽光発電のようなものをイメージしていたのですが、もしご検討済みであればご意見をいただけるとありがたいです。目標達成のためにあらゆる努力をしなければいけないという観点から、農地が比較的ある足立区としては努力をするべきではないかということで申し上げました。

**(田中充 会長)**

分かりました。他の委員はいかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

石毛議員が挙手されています。

**(田中充 会長)**

石毛委員、お願いいたします。

**(石毛かずあき 委員)**

私も廃プラスチックのサーマルリサイクルについてです。これまで区としては、埋立処分していた廃プラスチックを燃やすことによって、発生する熱エネルギーを回収して、温水供給とか発電を行ってきたという方針がありました。そういった中で、今回埋め立てられていた廃プラスチックも資源として有効利用することで、埋立処分場の延命化も図っていくというようなご説明をいただいています。どうして今回そうなるのか、48頁の記載では少し弱いかと思います。ですから、以前は以前で足立区としてもしっかりやってきたのだと、でも今回は様々なことを方向転換してこのような形でやっていくんだというところについて、大事な部分ですからさらっとではなくて、ある程度しっかりとした説明も必要ではないかと思えます。

もう1つは、30頁にいろいろな補助金のごことが記載されています。これは非常にありがたいことで、意識のある方はこういったものを見れば、自分で調べて使うということになるのでしょうか。文字列だけではなくて、もう少し分かりやすいような、関心を持たれるようなものにしていただきたいと思います。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。

他の委員はいかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

鹿浜委員が挙手されています。

**(田中充 会長)**

鹿浜委員、お願いいたします。

**(鹿浜昭 委員)**

先ほど18頁の特定生産緑地面積について、現状値が20.69haで令和6年度の目標値が21.8haになるということとし

たが、生産緑地は減少傾向というイメージが強いのですが、1.11ha増える根拠を教えてくださいと思います。

**(田中充 会長)**

分かりました。それでは事務局、ご指摘についていかがでしょうか。

**(工藤信 委員)**

特定生産緑地面積について、副区長の工藤からご説明いたします。

**(田中充 会長)**

はい。どうぞ。

**(工藤信 委員)**

面積を増やすのは非常に難しいとは思いますが、生産緑地の減免の制度が新しくなって追加で更新できるようになったというのが1点と、面積も500㎡ぐらいに狭くなりましたので、そういった制度をPRして少しでも生産緑地を残していただきたいということです。あとは区でお借りして区民農園に転用することも今やっていますので、そういったことで少しでも緑地を残していこうと努力をしております。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

休耕地の活用について、委員がご発言されていたのは営農型のソーラーということでございました。正直こちらのほうでは考えてはおりませんでした。太陽光発電の下をどうやって活用していくかということも含めて、情報収集させていただきたいと思えます。

補助金については、当然お知らせするときのチラシなども分かりやすくしていかないと、なかなか利用されないと思いますので、しっかりやっていきたいと思えます。チラシを作るときは、環境政策課だけではなくシティプロモーション課

や広報の力を借りて分かりやすくすることと、区の一定の場所で配るより、例えば電気関係の補助金であれば電気屋さんに置いた方がいいなど、そういう工夫もしながら知っていただけるようにしっかりやっていきたいと考えています。

**(山本克広 足立清掃事務所長)**

プラスチックにおける、サーマルリサイクルでの焼却から分別への転換に関する周知は、ご指摘のとおり十分やってまいります。これまでの経緯を踏まえて、さらにプラスチックの分別の意義は燃やすことによる CO<sub>2</sub> 削減だとか、新たにプラ製品を作るときに使う石油資源をなくしていくとか、そういったことも含めて十分時間をかけて説明していきたいと考えております。

**(田中充 会長)**

分かりました。

**(須藤純二 環境部長)**

冒頭、鹿浜委員から新築住宅の着工件数についてご質問がありましたが、正式な数字は手元にないのですけれども、おおむね 3,000 軒弱ぐらいのようです。

サーマルリサイクルの書き方については、方向転換に至った経緯も含めて、分かりやすく表現できるように検討したいと思います。

**(田中充 会長)**

全体にわたって丁寧にご審議いただきましたが、もし追加でこの点だけはどういうことがありましたら、どうぞご発言をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

田島委員が挙手されています。

**(田中充 会長)**

田島委員、お願いいたします。

**(田島のぞみ 委員)**

34 頁のごみ減量対策についてですが、今、子育てをしているのですけれど、子ども服などすぐサイズダウンする服やおもちゃなどがたくさんあって、今まではあだち再生館に不要になった服やおもちゃなどを持っていったのですが、今はそのような場所がありません。今、やよい図書館を利用しているのですが、入口に不要になった本を置く場所が設置されていて、そのような形で例えば子育てサロンや住区センターなどに、不要になった洋服やおもちゃなどを置ける場所を設置していただいて、循環できるようにしていただけたらと思いました。

自分が要らないものでも誰かが使うことで CO<sub>2</sub> も削減されますし、今、広がっている子育て世代の格差を減らすことにもつながるのではないかなと思いました。かつて私が子ども時代に、区役所の前でよくフリーマーケットをしていたと思うのですが、今はなくなってしまって寂しいので、今後コロナが解消されたらやってほしいと思っています。

あと 33 頁の足立区再エネ 100 電力導入サポートプラン協力金について、今の実績がどうなっているのかお伺いしたいと思います。

**(田中充 会長)**

後ほど事務局にお答えいただきたいと思います。それでは植村委員、お願いいたします。

**(植村公彦 委員)**

再エネ 100 電力導入サポートプランですが、これは東になるとすごくインパクトがある施策で重要だと思っていますが、実際にどのぐらい効果を上げているのか、どのぐらいの割合の方が導入されている

のか、またそれが低いのであれば、さらに増やしていくためにどのようなことを考えられているのかということについてお聞きしたいと思います。

**(田中充 会長)**

それでは水川委員、お願いいたします。

**(水川薫子 委員)**

34 頁のごみ減量対策のところ、期待される効果としてごみの減量とリユース（廃家電は主に途上国で使用）とさらっと書いてあるのですが、途上国では実際にこういう家電や電子機器のごみによる環境汚染が起こっていますので、他で使ってくれるから足立区だけ良ければいいという感じに受け取れてしまうかなと感じました。

他の所に出すものは、信頼できる所にきちんと出すということも踏まえた上で、このような取組をしていくということについて、何かしら明記があるといいと思います、提案させていただきました。

**(田中充 会長)**

分かりました。それでは、事務局からお答えをいただきたいと思います。

私、4時半から大学の会議がございまして、中座させていただきます。後の進行を申し訳ございませんが、百田副会長にお願いしたいと思います。百田副会長、よろしくお願いいたします。

**(百田真史 副会長)**

承知いたしました。それでは事務局、お願いいたします。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

事務局でございます。

リユースに関してですが、再生館でも今までいろいろやっていましたが、今、民間の事業者によるリサイクルショップが出てきたということで、再生館ではや

めております。他区でも直営でリサイクルショップを運営している所はまだありますが、どうしても大量の在庫を抱えてしまうという問題もあるとのこと。

リユースは CO<sub>2</sub> 削減にも非常に有効な手段ですが、やはり目利きみたいなものは必要だと思っておりまして、みんなが要らないものをどんどんもらっても仕方ないので、区民の人が欲しいものを集めるという仕組みも大切かと思えます。リユースについては大切な視点でございますので、今後、区としてもいろいろ検討していきたいと思っております。

再エネ 100 電力導入サポートプランに関してですが、現在 500 件のうち 35 件の申請しかないという状況です。私たちもせっかく新しくできた制度なので、例えばクレジットカード会社やデパート、携帯電話屋さんなども再エネ 100 電力をやっていますので、様々なところと連携できないかということをお話を聞かせていただきました。そうしましたら、今、燃料が非常に値上がりしている中で、つぶれている電力会社もたくさんあるということでした。受け付けを代行している事業者は、親会社である電力会社からインセンティブがもらえないので、受け付け自体をやめてしまったというところも多いようです。発電している電力会社も燃料費が高騰しているため、既存の契約者を守るため、なかなか新規の受け付けができない状況ということが分かってきました。

ただ、再エネ 100 電力の導入は CO<sub>2</sub> 削減に直接的な効果があるので、ぜひたくさんの方にこの補助金を使っていただけるように、区だけでは限界がありますので、民間の事業者と連携しながら利用拡



大を図っていききたいと考えています。

**(百田真史 副会長)**

ありがとうございました。

再生館の話や海外の汚染の話も含めたリユースについて、また再エネ 100 電力に関する情報収集など議論のきっかけをいただけたと思います。ぜひ進めていただければと思います。

それでは時間もありますので、報告事項について、事務局から資料の説明をお願いいたします。

**(井越昭久 計画推進係長)**

事務局でございます。

審議会資料の 2 頁です。環境基本計画改定版の指標の進捗状況についてです。環境基本計画の見直しを審議会で行っていただきまして、その改定後、最初の実績がまとまりましたので報告をさせていただきます。

2 頁から 6 頁に 2020 年度実績、2021 年度実績と 2024 年度の目標を指標ごとに一覧にしています。2021 年度実績の下には、計画の目標年度である 2024 年度の目標値に対する達成率を入れています。7 頁以降に各指標の実績の推移を示しています。特徴的なものをいくつか紹介させていただきます。

まず 1-2 の活動指標で、区の助成による年間の太陽光発電導入量です。前年度比 76.4%となっているのですが、2020 年度の数字が大きく伸びているのが分かると思います。これは 2019 年 10 月の消費税増税前に購入者がたくさんいらっしゃったということで数字が伸びています。したがって、2021 年度には少し戻ったようになっています。

次に 10 頁の 1-3 の活動指標が緑化活動に参加した区民の割合となっています。

こちらは、増加しているのですが、要因としましては気軽に参加できる自然観察や工作のイベントの実施や保育園への緑のカーテンの支援、緑の協力員の自然解説等のスキルアップ支援などを行った結果と聞いております。

次に 11 頁、2-1 の成果指標で区が把握できる廃棄物の量ですが、こちらはグラフの下に内訳を記載しております。

続きまして 13 頁、2-2 の活動指標で適正排出のための指導についてですが、こちらは本来、指導しなくてもよい状態を目指しているのですが、下がっていくべきところですが、指導の件数は増加傾向にあります。

次に 14 頁、2-3 の活動指標で資源買取市の利用者数です。こちらはすごく下がっていますが、新型コロナの影響で事業者が買取市の一部中止をしている状況が続いていることで、実績が下がっております。

続きまして 15 頁、3-1 の成果指標で公害苦情の相談件数です。前年度に引き続き、コロナの影響による在宅増ということで、近隣の工場などに関する苦情が多く寄せられています。

続きまして 16 頁、3-2 の活動指標で不法投棄処理個数です。不法投棄のピークが平成 24 年度ですが、2 万個あったところから約 64%減少しています。

続きまして 17 頁、4-1 の成果指標で自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合です。こちらは世論調査の項目ですが、性別や年齢別で見ると、70 歳以上の女性と 18 歳から 29 歳の男性の割合が 4 割台と高くなっているというのが特徴です。

続きまして 18 頁、4-2 の成果指標で

まちなかの花や緑が増えていると感じる区民の割合です。こちらでも世論調査の項目ですけれども、緑の基本計画の目標値にもなっています。質問項目の表現を、まちなかの花や緑が多いと感じる区民の割合に変えたことによって数値が上昇しました。それを受けて、緑の基本計画では目標値を64.4%に修正しており、環境基本計画でも同様に目標値の修正を行います。

続いて19頁、5-1の活動指標で環境に関する情報発信回数です。こちらは環境部がSNSや広報、チラシ、ポスターなどで環境に関する情報を発信した回数を指標にしているのですけれども、課内において持ち回りで定期的に情報発信を行うなど、方法の見直しが行われた結果、件数は伸びています。

最後に19頁、5-2の成果指標で自主的な環境保全活動数です。いくつか項目があるのですが、フードシェアリングサービス利用回数については実績が想定しているよりもかなり多くなっています。

報告事項1については以上になります。

**(百田真史 副会長)**

ありがとうございました。

皆様のご協力を得て作った環境基本計画の指標について、最初の実績がまとまったということで主な増減理由を併せてご説明いただきました。ご意見、ご質問はございますか。

特にないようですので、続いて次の報告事項をお願いして、また最後に何かあれば、ご意見をいただければと思います。では引き続き、事務局から資料の説明をお願いいたします。

**(加藤鉄也 環境政策課長)**

報告事項2から4まで続けて報告させ

ていただきます。

21頁をご覧ください。令和3年度の区施設におけるCO<sub>2</sub>排出量、ごみ量についてのご報告でございます。項番の1、対象施設でございますが、本庁舎、区民事務所、住区センター等々、ここに書いてある施設について集計をしております。

項番の2を見ていただきたいのですが、CO<sub>2</sub>排出量や電気・都市ガス使用量について、都市ガスの使用量が2013年度比で15%増えている状況でございます。理由としまして、避難所での停電時の使用を想定して、区内の全小中学校の体育館にガスヒートポンプ・エアコンを設置したため、当時、体育館にエアコンがなかった分その分の都市ガスの使用量が増えているというところでございます。実績でございますが、令和元年度1校、令和2年度91校に設置をしております。

項番の3ですが、都市ガスの使用量等をグラフ化したものでございます。参考にご覧いただければと思います。

次の頁に行きまして、項番の4でございます。電気事業者の排出係数でございますが、調達順位の上位5社について示しております。国の目標は0.25ということですので、これが着実に下がっていくものと見込まれます。

**(山本克広 足立清掃事務所長)**

報告事項3、23頁をご覧くださいと思います。令和3年度の家庭ごみ排出量及び資源化量、資源化率についてです。燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、古紙、びん、缶、ペットボトルなど、全て令和3年度は令和2年度より収集量は下回っております。ただ、例年よりは多く、令和2年度がコロナ禍におけるステイホームということで、家庭内の消費増

に伴うごみ量、また、家庭で過ごす時間が増えましたので、片付けによる粗大ごみや雑誌類の排出等が増えております。令和3年度は令和2年度に比べれば落ち着いたという状況です。

24頁をご覧いただきたいと思います。資源化率ですが、特に燃やさないごみは金属等が多いですので、90%が資源化されています。また、粗大ごみも木材などを中心に3割ほど資源化しております。

最後に参考ということで1人1日当たりのごみ排出量は532グラムです。これも、平成30年度までは順調に減っていましたが、コロナの関係で令和2年度をピークに増えている状況です。今後、減少を目指してまいりたいと考えております。

#### **(加藤鉄也 環境政策課長)**

続きまして26頁、報告事項4をご覧ください。資源持去り防止対策の実施結果についてのご報告でございます。

項番の1、区では資源の持去り防止指導員として車両1台に2人体制でパトロールを行っています。表にあるように注意から罰金まで、いろいろな処分を行っているところでございます。特徴的なのは注意等が大きく減っている一方、過料は増えているということで、繰り返し行う人が多いというのが、ここから見て取れると思います。

項番の2は、さらに民間の警備会社がパトロールを行っております。これはチラシなどで警告するというものでございますが、若干増えているということでございます。持去りの状況としては、アルミ缶などの売却価格が高騰していることで、持去りが増えてきているというところと、持去りが集中する時間帯の臨時パトロールを行った結果、実績が増えてい

るということでございます。持去り指導については、今後もしっかり対応していきたいと考えております。報告事項は以上でございます。

#### **(百田真史 副会長)**

ありがとうございます。

報告事項2から4ということで、区施設のエネルギー使用量や家庭の資源持去り対策について報告いただきました。ご意見、ご質問があれば、よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。それではここまでとさせていただきます。

事務局から今後の予定などについてご案内をお願いいたします。

#### **(加藤鉄也 環境政策課長)**

長時間にわたりご審議いただきありがとうございます。第3次足立区環境基本計画の行動指針をチェックリストにしたパンフレットですが、現在、印刷準備を進めていますので、印刷したものが届きましたら、皆様にもお送りしたいと思います。

次回の審議会でございますが、11月22日火曜日、午後3時から開催予定でございます。会場は、12階の1204会議室を予定しております。後日、環境審議会の開催文書にて、あらためてお知らせをさせていただきます。次回もオンラインを併用した形で開催する予定でございます。事務局からは以上です。

#### **(百田真史 副会長)**

ありがとうございました。

様々な視点からご意見をいただき、有意義な情報共有ができたと思います。今後、それらに基づいていろんなことを考えていかなければいけないのですが、皆様のご意見をできる限り反映できるよう

に情報収集を行いつつ、今後とも議論を進めていきたいと思ひます。

それではこれをもって令和4年度第2回足立区環境審議会を閉会させていただきたいと思ひます。皆様、ありがとうございました。

以上

(会議録署名)

令和4年度第2回環境審議会 会議録記録署名員  
(令和4年9月9日 開催)

会 長	田 中 亮
署 名 委 員	鹿 浜 昭
署 名 委 員	石 生 一 昭